

「小さな失敗を認める社会」と

“女性の高学歴化逆クオータ制 “で高い経済成長を！”

経営士・技術士 西 満幸

(1) 小さな失敗を認める社会へ変革し開業率倍で経済の高成長を！

グローバルアントレナーシップ モニター (GEM) によると我が国の総合起業活動指数 (TEA) は先進 7 か国平均の 4 割である。また、日本の生産性はアメリカの 6 割に過ぎない。これが、日本の経済成長が先進国に比べ低成長の原因と考える。生産性は労働、資本、全要素からなり、いずれも大きな課題がある。労働の伸びが期待できない日本では資本と全要素生産性を上げ経済成長を図る必要がある。経済成長には産業の新陳代謝が必要であり、開業・創業はその経済の成長エンジンとなる。

開業率が高い国では小さな失敗は勲章と考えている。失敗は成功のもとであり、次のチャレンジの礎になり成功の確率はより高くなる。イノベーションの権威であるディウイド・ケリは“失敗の回数が増えれば、それだけ成功がはやくなる”といった。ウォルト・ディズニーは“私は人から成功する秘訣を教えてほしいとか、どうすれば夢を実現できるか”と尋ねられます。その答えは、“自分でやってみること”ですといった。Google は失敗を恐れずまずできることから試みる (小さく生んで大きく育てる) といっている。インフラのような大規模の事業でもタコマナローズ橋が強風のため崩壊 (1940 年 11 月)、その再設計を最初の設計者に任せたのは有名な話である。このように、“失敗は成功のもと “であることが世界の常識である。一方、日本では“失敗は失敗のもと” という気風が強く失敗した人には、また失敗するのではないかと再チャレンジさせない。世界の常識からするともったいない話である。

日本の開業課題として起業に対する関心と知識が不足していることが指摘されており、また失敗者に対する社会的な与信の問題がある。①起業に対する関心と新しいビジネスを始めるために必要な知識、能力、経験に関する中学・高校・大学での創業教育実施。②副業を認める企業はまだ 20%、これを早急に全企業に拡大し死の谷回避。③アメリカの破産法は簡単に破産・簡単に再チャレンジ出来る。このような早い与信回復。④企業におい

ては社内起業のすすめ、ただし人事制度は加点主義制度への大転換。⑤働き方改革による労働時間と労働生産性の負の相関（長時間働いた人が偉くなる“時間人事”から“知識人事”制度へ）など併せた施策を進める。

産業構造はモノからコトへと言われ始めてから久しい。IoT と AI の時代を迎え T に強い日本は千載一遇のチャンスを迎えている。モノから“モノとコト”へ潤沢な内部留保の有効活用を図り、“小さな失敗を認める社会”へパラダイム・シフトを行い高い経済成長へ向かいたい。“失敗は成功のもと”をもう一度肝に銘ずる必要がある。

(2) 女性の高学歴化“逆クオータ制”の薦めによる高経済成長へ！

個人の成長と学歴はあまり関係がない。しかしながら、IoT と AI の時代を迎え、国の経済成長と学歴の間には大きな相関がある。日本の高等教育在学者の人口千人当たり人数は30人でアメリカや韓国の1/2、イギリス、フランス、ドイツとほぼ同じである。ところが、日本の大学院在学者は同2人、先進国の1/2（イギリス）～1/6（ドイツ）で極端に少ない。在学者絶対数で人口の少ない韓国の1/2。これでIoT・AI時代世界と戦えますか？

大学や大学院への社会人入学、高い入学金・授業料制度などの課題は早急に解決する必要がある。GEMの“男性のTEAに対する女性のTEAの比率”は先進7か国の6割に満たないことは大問題である。高学歴女性と起業率の相関係数は0.8で、強い相関がある。高学歴の女性比率が低いのが日本の特徴である。教育に一番熱心な女性、子供と接する時間が最も多く・長い女性の役割は大きい。現在日本の大学院生の男女比は7：3である。大学院の人数を先進国平均並みに現在の3倍、かつ女性比率をイギリス並みに6割程度に引き上げることを提案したい。平塚らいてうは『元始、女性は太陽であった』といった。これは、現在も未来も変わらない。女性の高学歴化逆クオータ制を進めることで、現在わが国で課題となっている他のクオータ制のすべてが解決できると考える。

“小さな失敗を認める社会”と“女性の高学歴化逆クオータ制”“は日本の高い経済成長につながり、マルコポーロが東方見聞録で語った“黄金の国ジパング”を再び取り戻せる礎になると考える。

(TAMA マネジメント研究会 創立 25 周年記念誌 2018 年 6 月)